

鳥取赤十字病院 糖尿病講演会

入場
無料

～糖尿病と感染症～

会場 鳥取赤十字病院
多目的ホール

日時 11月12日（金）

時間 14:00 ~ 15:50

糖尿病の方はもちろん、
糖尿病でない方、関心のある方は参加して下さい。

内容

講演

医師 安東史博

「糖尿病と感染症について(仮)」

感染管理認定看護師 西村節子

「感染予防について(仮)」

質問コーナー

医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・
理学療法士・検査技師が質問に
答えます。

申込み方法：参加申込書を記入し、内科外来7・8診に提出
してください

◆主催：鳥取赤十字病院 糖尿病教育推進委員会

糖尿病と感染症について

内科医師 安東 史博

2010年の厚生労働省の発表によりますと、一般的な日本人の死因で感染症は4番目に高い原因とされており全体の9.9%の割合を占めています。一方で糖尿病患者さんの死因においては感染症は2番目に高い原因とされており全体の16%を占めていたと2016年に報告されています。血糖値が高い状況では白血球の遊走能が低下するとの報告もあり、糖尿病治療中の患者さんは、より感染症の予防に努めることが大切と考えられています。

世界中で流行している新型コロナウイルス感染症と糖尿病との関連性について報告によって意見が分かれています。糖尿病があるからと言って感染しやすくなるわけではないようです。一方で糖尿病があると感染した場合に重症化するリスクがありますが、血糖コントロールを良好にしておくことで重症化を抑制できることもわかってきておりますので日々の糖尿病診療において生活習慣を整え、服薬も忘れないように心がけて下さい。外来診療において患者さんからは新型コロナウイルス感染を危惧してステイホームを意識するあまり、ウォーキングやスポーツジムへの取り組みをやめたしまったとの話を伺う機会が増えています。鳥取は冬季に降雪や路面の凍結もありウォーキングをやめてしまう話もよく伺いますが、屋内での体操や筋力トレーニングも効果が期待できますので運動不足にならないように気

を付けていただきたいと思います。

また新型コロナウイルスに対してはワクチンへの皆様の関心が高く既に摂取されている方が多いですが、肺炎球菌ワクチンやインフルエンザワクチンについてはご存じない方や摂取を希望されない方が多い印象です。高齢になるほど肺炎に罹患した際の死亡率が高く、65歳以上の肺炎の起因菌で一番多いのは肺炎球菌で30%を占めていたとの報告もあります。また日本において2018年に3,325人の方がインフルエンザの罹患により死亡されています。インフルエンザ罹患後に肺炎を合併することがあり、その起因菌も肺炎球菌が一番多いとの報告があります。高齢者の方には肺炎球菌は1回/5年、インフルエンザは毎年摂取券が届くと思いますので外来主治医と相談しましょう。肺炎球菌は1度接種券を使用してワクチンを施行されましたら以降は接種券も届きませんし自費での摂取が必要となりますので注意してください。

呼吸器感染のみならず、尿路感染や歯周病、皮膚軟部組織感染症についても糖尿病とは関連しており注意が必要です。予防に努めていただき、体調の変化を自覚したら様子を見ずに医療機関を受診し早期に治療開始することを心がけましょう。

感染予防について

感染管理認定看護師 西村 節子

感染成立に必要な要素には、病原体・病原性・病原体の量・伝播経路・侵入門戸・感受性のある宿主があり、これら全て揃うことで感染が成立する。また、感染成立には、微生物が定着→体内に侵入→体内で増殖することであり、増殖に関しては感受性のある宿主かどうかが重要である。感受性のある宿主とは、特定の病原体への効果的な抵抗力を欠くヒトとされる。

侵入門戸について考える。私たちの体は全体が皮膚で覆われている。この正常な皮膚は強力なバリア機能を有しており、細菌やウイルスが皮膚を突き破って中に入ることはできない。例外として、眼球・鼻腔・口腔・尿道・膣・肛門は粘膜で覆われ、皮膚にあるようなバリア

機能を持たない。また、火傷や褥瘡、手術創や点滴やドレーンなどの管が挿入されている状態、怪我などは正常でない皮膚とされ、そのバリア機能を失っており、たやすく定着→侵入となってしまう。

感染対策とは、病原体については勿論、このような感染成立と侵入門戸、感受性のある宿主などを確認し、感染経路の遮断を最大限に実施できるようにと考えることである。感染経路の遮断として有効なものは、「標準予防策」である。これは、現在の医療現場での常識とされており、全てのヒトを対象に常時行われるべき対策であり、手指衛生・個人防護具の適切な使用・呼吸器衛生や咳エチケット・環境整備（そうじ）や換気などがある。

新型コロナウイルス感染の流行で、標準予防策の周知や徹底が一気に広がった感はある。

糖尿病患者は、感染症にかかりやすい、重症化しやすい、また感染症になると血糖コントロールが不良になる。非糖尿病患者と糖尿病患者の一般的な感染症の罹患率は、1.4倍～3.5倍ほど、糖尿病患者の方が高いと言われている。糖尿病患者では、感染防御機能の作動の際、白血球が感染源を見つけて移動するスピードが非糖尿病患者より遅く、全般的な免疫不全状態となっている。また、糖尿病患者では血流障害のため、抗菌薬の組織移行が不良であることなどが、感染症の重症化に繋がると考えられる。

糖尿病患者と関連の深い代表的な感染症には、尿路感染症、皮膚・軟部組織感染症（足病変・歯周病）、インフルエンザなどがあり、特に注意が必要である。これらに対して気をつけることとして、①口腔内のケア、衛生保持、②陰部の清潔ケア、③皮膚、足の清潔ケア、④積極的なワクチン接種がある。歯科クリニックでの定期的なケア、歯周病対策、足の観察やフットケア、陰部や全身の皮膚の清潔と乾燥に気をつけ、保湿に心がけて皮膚のバリア機能を正常に保つようにする。自身に対する観察とセルフケアを毎日行うことが必要とされる。生活習慣においては、咳エチケットや手指衛生などの標準予防策の徹底が、糖尿病患者では特に重要である。